

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ学園広報誌

神女広報

vol.25
2018 Winter
CROSSROADS



神戸市立須磨離宮公園
「西離宮」

特集

地域社会に密着 子どもたちに食育を

- 6 教育研究活動
- 12 トピックス
- 15 地域連携
- 18 神戸女子大学附属高倉台幼稚園
- 19 インフォメーション

学校法人行吉学園

神戸女子大学 神戸女子大学大学院 神戸女子短期大学
神戸女子大学教育センター 神戸女子大学附属高倉台幼稚園

子どもたちへの食育を

平成17年に食育基本法が成立し、その前文には、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。」「子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである。」(一部抜粋)と謳っています。

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程と神戸女子短期大学 食物栄養学科はともに「食と健康」に関わる諸問題を研究し、国民の健康の維持、増進のために必要な知識と専門性を持った社会に貢献できる人材を育成しています。

今回は神戸女子大学・神戸女子短期大学・神戸女子大学附属幼稚園で取り組んでいる子どもたちへの食育活動を紹介しています。

神戸女子大学 家政学部 管理栄養士養成課程



小学校で調理実習

家政学部 管理栄養士養成課程 田中 紀子教授

田中 紀子教授(専門:栄養学)の研究室のゼミ生3・4年生12名と大学院生1名の合計13名が、平成29年9月19日(火)神戸市立和田岬小学校の5年生の児童35名を対象として、旬の野菜を使った「神戸産'sキッチン」を奥田 雅人PTA会長からのご提案により神戸市兵庫区役所、JA兵庫六甲の協力を得て同小学校で開催しました。

田中教授は野菜に含まれる栄養についてのミニ講義を行い、神戸はさまざまな農産物の生産地であることも説明しました。

学生は事前に献立、レシピ、調理方法、手順を考え試行錯誤を重ね、料理のリハーサルを念入りに行い、当日は早朝から準備をして料理教室に臨みました。

主菜は「マーボーナス」中華風の献立です。調理手順は多少複雑でしたが、子どもたちは役割を決めて協力しあい、時間内に美味しそうな料理を作ることができました。

学生たちは、安全を第一とし児童が自主的に調理できるようサポートをしました。

最後に「ナスは嫌いだったけれど好きになった」「家でも作ってみたい」との感想を聞いて、自分で調理する楽しさを実感してもらえたことに学生たちは満足し、この食育活動に関わったことで管理栄養士として将来活躍できる自信を持ちました。



調理実習メニュー

- 主菜：マーボーナス
- 副菜：春雨サラダ
- 汁物：中華スープ
- デザート：ぶどう寒天
(神戸産ビオーネ使用)



田中紀子教授(前列左から3人目)と食育活動を行ったゼミ生・大学院生

子育て中のお母さんに魚料理のレシピを提供

家政学部 管理栄養士養成課程 安田 敬子准教授

安田 敬子准教授（専門：栄養教育論）の研究室では、魚の摂取頻度の向上、地域食材を使った地域活性化、食文化継承をテーマに食育の研究を続けています。

平成 28 年度から「垂水マミーズ」^(注)が主催する「おさかな料理教室」で、学生が垂水漁港で水揚げされる魚を中心にした献立をたて、魚のさばき方や調理方法を教えています。

平成 29 年度は 4 年生 2 名の学生が、「おさかな料理教室」で、“魚離れ”が進む現代の状況の中、子育て中のお母さんが魚料理に親しみ、親子で魚を食べる機会が増えることを目的とした食育活動を展開。月 1 回の割合で料理教室に出向き、その都度、旬の魚を使った「簡単！お手軽！おいしい！親子でできる！」そんな魚料理のレシピを作成し、魚に含まれる栄養素についても解説をしています。「おさかな料理教室」では、参加したお母さんたちの笑顔と「美味しかったから家でも作ります」という言葉に励まされ研究を続けました。



卒業研究を指導する安田敬子准教授（右）とゼミ生



秋レシピ

- ・イワシの蒲焼 丼
- ・小松菜の磯香和え
- ・イワシのさっぱり煮
- ・イワシの骨せんべい



イワシのさばき方を説明する学生



イワシの手開きに挑戦中のお母さんたち

(注) 垂水マミーズ：神戸市垂水区役所の「垂水魅力アップ活動助成」を受けて「垂水のお魚を食べようプロジェクト」をはじめ、さまざまな子育ての支援活動を行っているボランティアグループ

こども園で毎月食育活動を展開

家政学部 管理栄養士養成課程 橋本 加代准教授

橋本 加代准教授（専門：公衆栄養学）の研究室では、4 年生の学生が毎月 1 回社会福祉法人みつくす社会福祉会「みつばこども園」に出かけ、大学で学習した内容を実践に結びつけた食育活動を行っています。

学生たちは園児が「食」についての興味・関心を高めることを目標とし、同園の管理栄養士と相談して年間計画を立て、園児の発育に応じたお話やクイズを行い、手作りの写真や絵のパネル、実物の食材を毎回持ち込み園児が楽しんで食育の時間を過ごせるように工夫を重ねています。同園の保護者向け「食育だより」「ミニレシピ」も毎月発行し、学生のオリジナルメニューや情報を提供して家庭とも連携した食育を推進しています。

学生たちは「食」を通して園児の健康な心と体が育ち、自然の恵みを感じ、調理する人への感謝の気持ちが育つように工夫を重ね食育活動を行っています。



10月の食育活動を行ったゼミ生と橋本加代准教授（左）



10月の食育活動：絵本で稲ができるまでを説明。園児が白米・玄米・粳を触り、その感想を発表した



神戸女子短期大学 食物栄養学科



西川貴子教授の講演



学生担当のブース:「まごはやさしい」すごろく

神戸市と連携 「親子 de 食育」

食物栄養学科 西川 貴子教授

平成 29 年 8 月 27 日 (日) に神戸市教育委員会・神戸市立小学校 PTA 連合会共催で行われた「親子 de 食育「まごはやさしい」を学んで給食を食べよう！」に、神戸女子短期大学 食物栄養学科の教員 3 名と栄養教諭を目指す 1 年生 9 名が協力しました。

このイベントは神戸市長田区の「ふたば学舎」で開催され、42 組 106 名の親子が参加しました。

西川 貴子教授は、推奨する「まごはやさしい」ま(豆類)、ご(ごま)、は(わ)(わかめ・海藻類)、や(野菜類)、さ(魚類)、し(しいたけ・きのこ類)、い(いも類)を取り入れた栄養バランスの取れた食事をテーマとした講演を行い、ファーストフードと和食を例にあげて栄養面のバランスの違いを示し、多くの食品を食事に取り入れることの大切さを分かりやすく説きました。

会場には神戸市の栄養教諭による「まごはやさしい」の七つの分類で食材を説明するブースが設置され、参加者はそれぞれのブースから食材を選び献立を考えるワークショップも行われました。西川教授はその講評も担当しました。

食物栄養学科の学生は、箱に入った野菜を当てる「ブラックボックス」と「『まごはやさしい』すごろく」という学生オリジナルのブースを受け持ち、子どもたちが食材に関心を持ち楽しく遊んでもらえるように工夫しました。

子どもに人気の牛肉のウエスタン風を主菜とした給食の試食会は、お父さん、お母さんも小学生の時に食べた給食を思い出し、親子の会話も弾んでいました。

神戸女子短期大学の卒業生で神戸市立の小学校で栄養教諭として勤務している先輩 2 名も「親子 de 食育」のスタッフとして参加し、その活躍ぶりを目の当たりにした学生たちは、将来は自分も栄養教諭になるという目標を改めて認識し、食育の実践活動にも参加でき学ぶことが多いボランティア活動となりました。



献立

- ・牛肉のウエスタン風
- ・カミカミビーンズ
- ・カリフラワーのスープ煮
- ・パン
- ・牛乳
- ・みかんゼリー



献立の講評を行う西川教授



ボランティアに参加した学生と教員、神戸市教育委員会の方(前列)と一緒に記念撮影。前列左が本田まり准教授、後列左が吉泉和憲教授



試食の様子

「栄養学実習Ⅱ」の授業で市内の園児を招き調理実習

食物栄養学科
竹内 美貴助教、中村 千里講師

「栄養学実習Ⅱ」(担当:竹内 美貴助教、中村 千里講師)の授業では、毎年ポートアイランドキャンパスの調理実習室で「子ども料理教室」を開き、学生が食育の実践方法を学んでいます。

平成29年11月7日(火)は、神戸市中央区の社会福祉法人みのり福祉会「みのり認定こども園」の5歳児24名を招き、「子ども料理教室」を開催しました。今回のテーマは「旬の食材を知ろう」とし、秋が旬の食材を使い、子どもが「食」への興味や関心を持つことを目標にしました。献立は学生たちが考えた和食のレシピで、5歳児が自分で作ることができ、栄養バランスがとれ、旬の食材を使っています。

園児は、小さな手で子ども用の包丁やはさみを使って食材を切ったり、フライパンで炒めたりしながら、一生懸命に調理に取り組みました。出来上がった料理は学生が作ったランチョンマットに配膳され、試食の時間では「おいしい」という声と笑顔があふれていました。この料理教室は、学生が食育の大切さを実感し、将来は栄養士として活躍するという目標を確認する機会にもなっています。



献立

- 主菜：鮭のきのごあんかけ
- 副菜：ほうれん草のごま和え
- 主食：さつま芋ごはん
- 汁物：豆腐とわかめのみそ汁



手のひらで豆腐を切る園児と見守る学生



実習の様子



試食の様子

神戸女子大学附属高倉台幼稚園

パン教室

神戸女子大学附属高倉台幼稚園は年長の園児に、「食」についての関心を持ち、思いやりの心が育つように、毎年9月にパン教室を神戸女子大学須磨キャンパスのパン加工室で家政学部とパン研究会の協力を得て行っています。

あらかじめ園児たちは、先生に「おたからパン」「くまくまパン」「からすのパンやさん」などの絵本を読んでもらい、管理栄養士からパンの材料やパン生地の作り方についてのお話も聞いています。粘土遊びやクッキー作りなどの時間も設けられ、興味をもって楽しみながらパン作りができるように準備をしてパン教室の日を迎えました。

当日、園児たちは目を輝かせてパン作りに取り掛かりました。パン生地を扱うことは初めての体験でしたが、みんな上手に自分の好きな形にパンを成形していくことができました。動物の顔に見立てた大きなパン、まん丸のお団子みたいなパン、お父さん、お母さんの顔のパン、子どもたちの個性の数だけたくさんのパンができあがりました。



足田満吉助手と大瀬良知子管理栄養士が一人につき350グラムのパン生地を配付



家族の人数分のパンを作る園児



学生が見守るパン教室の様子



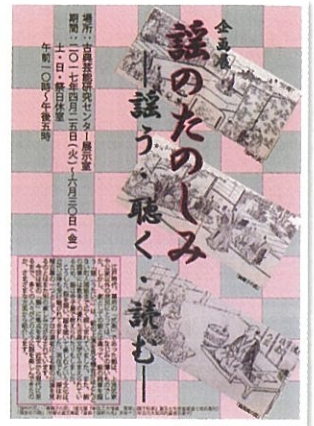
古典芸能研究センターからのお知らせ



古典芸能研究センターが現在取り組んでいる研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」(文部科学省平成25年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択)では、日本有数の古典芸能関係コレクションを所蔵し、貴重な民俗芸能の宝庫である兵庫(摂津・播磨)に位置する本学の有形無形の資産を生かした研究拠点づくりを目指しています。

企画展「謡のたのしみー謡う・聴く・読むー」

平成29年4月25日(火)～6月30日(金)、古典芸能研究センター展示室で、企画展「謡のたのしみー謡う・聴く・読むー」を開催しました。江戸時代、幕府の「式楽」であった能は、上流武家や公家以外の庶民にとっては、なじみの薄いものでした。しかし、劇としての能とは違って、能の詞章を謡う「謡」は、能の上演を見る機会がほとんどない町人階級まで広く親しまれていました。こうした、謡を謡い、謡を聴いて楽しむという文化は、近代以降も受け継がれていきます。この展示では、「謡」に焦点をあて、近世から現代に至るまで、多くの人々がどのように謡を楽しんでいたのか、さまざまな方面から紹介しました。



特別講座「源氏物語と芸能」

企画展「源氏物語の広がり～古典芸能の世界へ～」

古典芸能研究センターでは、神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ秋期講座で特別講座「源氏物語と芸能」を開講しました。それにあわせて、展示室では、企画展「源氏物語の広がり～古典芸能の世界へ～」を開催しました。

特別講座「源氏物語と芸能」

期間 平成29年9月25日～10月30日 毎週月曜・全5回と10月28日(土) 能楽鑑賞会

- 講座内容**
1. 源氏物語と平安文化
北山 円正(古典芸能研究センター兼任研究員・神戸女子大学文学部教授)
 2. 源氏物語と能
大山 範子(古典芸能研究センター非常勤研究員)
 3. 能(野宮)の構想
樹下 文隆(古典芸能研究センター兼任研究員・神戸女子大学文学部教授)
 4. 演者に聴くー観世流シテ方上田拓司氏を迎えてー
上田 拓司氏(観世流シテ方)
聞き手:長田あかね(古典芸能研究センター非常勤研究員)
 5. 源氏物語と近世の浄瑠璃
川端 咲子(古典芸能研究センター非常勤研究員)

10月28日(土) 上田観正会能楽堂 ※入場料自己負担

能楽鑑賞会「(野宮)の舞台を観る」(観正会定式能観能)
解説・案内:長田あかね



公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」

古典芸能研究センターでは、研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」のまとめとして、11月25日（土）に公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」を開催しました。

公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」

- 日時** 平成29年11月25日（土）11時～17時
- 場所** 神戸女子大学教育センター 5階特別講義室
- 主催** 神戸女子大学古典芸能研究センター研究プロジェクト
「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」

【講演】 「世界の中の日本芸能」
時田 アリソン（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長）

【シンポジウム】 テーマ「古典芸能研究の横断と総合」

「中世芸能の宗教的背景—伊藤正義文庫と中世宗教テキストの世界から見えるもの—」

阿部 泰郎（古典芸能研究センター客員研究員・名古屋大学大学院文学研究科教授）

「能楽研究の現況と課題—『風姿花伝』奥義の「奥義」の意味とそれをめぐる問題をめぐって—」

天野 文雄（古典芸能研究センター客員研究員・京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長）

「民俗芸能へのまなざし／民俗芸能からのまなざし」

川森 博司（古典芸能研究センター長・神戸女子大学文学部教授）

【討論】 時田・阿部・天野・川森＋フロア
司会：藤田 隆則（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授）



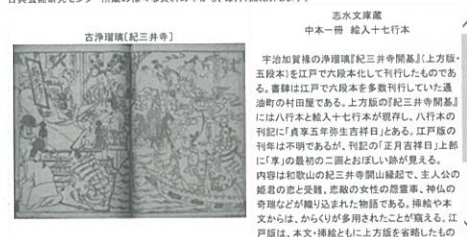
平成29年度
スタート

ホームページ新連載「今月の資料」

古典芸能研究センターのホームページで、センターが所蔵するさまざまな資料を毎月1点紹介することになりました。和書・洋装本・雑誌などジャンルを問わず、センターが持つ幅広い資料を積極的に紹介していきます。開催中の展示の宣伝を兼ねて資料を選ぶこともあります。トップページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

11月の資料

古典芸能研究センター所蔵の様々な資料の中から、毎月1点紹介します。



平成29年
5月刊行

『食満南北著『大阪藝談』』刊行記念展示

けまなんぼく
「食満南北」図録 刊行

古典芸能研究センターでは、開設15周年記念事業の一環で昨年度に開催した「食満南北」展の図録を、平成29年5月に刊行しました。この展示は、開設15周年記念のメイン事業であった『食満南北著『大阪藝談』』（神戸女子大学古典芸能研究センター叢書2）の刊行を記念して講演会とともに企画し、新聞各誌に取り上げられ、大勢の見学者を迎えて好評を得ました。図録には、『大阪藝談』の原稿をはじめとするセンター所蔵の南北関係資料や、展示で借用した他大学や個人所蔵の南北の書画なども掲載しています。ご興味のある方はセンターまでお問い合わせください。（非売品） 古典芸能研究センター TEL:078-231-1061（直通）



科学研究費助成事業（科研費）に採択された研究紹介

「糖尿病患者へのエンボディメントケア」の
効果検証とその実用化への方略の検討

研究期間：平成 25 ～ 28 年度

研究種目：基盤研究（B）

神戸女子大学 看護学部 看護学科 教授 野並 葉子



今回紹介する研究は以下の科研費を得て継続発展させたものである

平成 16～19 年度 基盤研究（B）「糖尿病患者へのヒューマン・ケアリングアプローチの有用性の検討」

平成 20～24 年度 基盤研究（B）「糖尿病患者へのエンボディメントケアの実用化の検討」

この研究は、約 20 年の時間を経て、看護ケアの介入による評価研究が可能となったものです。1998 年からおよそ 10 年間は、高度な看護の専門的知識・技術を持った実践研究者の育成に費やしました。実践科学としての看護学の研究では、ヴァイツェッカーが「『生命と関わりあう』というの、研究者自身が生きている主体として、同じく生きている主体である生きものとの相互主体的に関わるということだ」といっている技能が研究者に必要です。さらに、「看護学は、人間を生活する主体としてその生活の営みの中で捉える」という前提に立っていることも忘れてはなりません。前任校でまず 1998 年より大学院修士課程で慢性疾患看護専門看護師養成教育を開始し、糖尿病看護をサブスペシャリティとした専門看護師 9 人が誕生するまでに 10 年を要することとなりました。

誕生した専門看護師と一緒に始めたのが、看護ケアリングの考えを基にした糖尿病患者への看護ケアの開発です。能力の喪失や機能不全をめぐる人間独自の体験としての病気（illness）としての糖尿病は、その発症過程においても、療養過程においても、当事者としての糖尿病患者は自己理解、つまり生きていることの根幹を生活の中に問うことが求められます。そこで本研究では、P・ベナーらのいう「人はそれまでの経験を通じて形成された特定の自己理解を背景にして病気を体験していく」という考え、及び「看護師は、患者が

気遣いを取り戻し、生きていることに意味を見だし、人とのつながり・世界との結びつきを維持または再建できるように手助けすることができる」という考えに立って看護ケアを開発しました。最終的に「P・ベナーらのケアリング理論をもとにした糖尿病患者へのエンボディメントケア」と、このケアの 4 つの実践プロトコルの開発と検証をしました。次に、本ケアで開発した技能を伝承するための学習支援プログラムの開発と人材育成を行い、94 名の看護実践者を育成しました。この学習支援プログラムの成果は、本学看護学科カリキュラムに導入したコミュニティオブプラクティスの考え方に立った「学びのグループゼミ」に生かされています。

これらを経て、今回報告する「『糖尿病患者へのエンボディメントケア』の効果検証とその実用化への方略の検討」に進むことができました。結果としては、本ケアの介入によって、合併症を持つ糖尿病患者が血糖を良好にコントロールできるようになる効果が期待できること。また、本ケアは患者の健康感に影響することが明らかになりました。看護師の支援を得て健康管理法を獲得していくことで、血糖を含めた体調を良好に管理することができる可能性があることが分かりました。



「COPの考えを取り入れた「学びのグループゼミ」での学生の学び」研究打ち合わせの野並教授



資料を整理中の野並教授

家政学科 フィールドワーク「防災対策とインフラ」を学ぶ

神戸女子大学家政学部 家政学科2年生の専門科目「フィールドワーク」(担当：平田 耕造教授・大森 正子准教授)では、興味や関心のあるテーマを設定し、教室を離れ調査研究を行っています。

平成29年度のテーマは「防災対策とインフラ」でした。履修している15名の学生は防災に関する知識を深め、関西電力神戸支社、大阪ガス泉北製造所、神戸市水道局の奥平野給水拠点を見学し、災害時にインフラの拠点となる事業所ではどのような対策がとられるか調査しました。

そして、平成29年9月23日(土)には、NPO法人プラス・アーツの防災教育研究所長・神戸事務所長 室崎友輔氏を講師に迎えて、地震等で電気・ガス・水道などのインフラが甚大な被害に遭い、ライフラインが復旧するまでの3日から7日間を身の回りのもので工夫し、自力で生活するという防災対策の実践演習を須磨キャンパスで行いました。

午前中は、屋外で食事作りに挑戦。牛乳パックを燃料に空き缶で一人ずつご飯を炊き、ビニール袋で「乾物サラダ」、大釜でみそ汁を作りました。広告を折って作った食器にビニール袋をかぶせてご飯とサラダをよそい、上部を切った耐熱ペットボトルにみそ汁を注ぎ食事をしました。

午後は、体育館等で避難生活をする場合、少しでも快適に生活できるようにする方法を考えました。プライバ

シーをできるだけ確保し決められたスペースを有効に使うことを念頭に、ダンボールで避難所の間仕切り及び男性が座っても壊れない丈夫な椅子とトイレを作る課題に挑戦しました。

2グループに分かれ1時間の制限時間内で、人目を気にせず睡眠が取れるような避難所の空間、収納スペースのついた椅子、衛生面に配慮したトイレが出来上がりました。製作物ごとに、創意工夫をしたところを発表し、室崎氏からは両グループとも課題をクリアし機能的な作品になっていると評価されました。



ダンボールで避難所の間仕切りを作る学生たち



男性が座っても大丈夫なことを証明する
室崎友輔氏



ダンボールの椅子。
手帳とペンの収納もできる

この他にも、当日は応急手当の方法や多方面に役立つロープワークも学びました。

学生たちは、「学んだことを災害が起きた時には役立て、自分だけではなく家族や周りの人を助けたい」「身の回りのものを使って工夫すれば、災害時に対応できることが分かった」「毎日便利な生活をしていることが分かり、平穩に過ごせていることに感謝したい」と感想を述べていました。

一人ひとりが日頃から災害に備え、自分の努力で被害を少しでも減らせるための「自助」がいかに大切かを実感し、12月の発表会では研究成果をお互いに確かめ合い、防災対策を真剣に考え、災害時には何をすべきか、学生たちは「フィールドワーク」の授業でしっかりと学びとりました。



発表会の様子



ご飯を炊くために空き缶に穴を開け、燃料の牛乳パックを裁断する様子



下の缶に穴を開けてコンロにして
ご飯を炊く



炊き上がったご飯



ガス・電気を使わず作った昼食。
ご飯、みそ汁、乾物サラダ

インドネシア ウダヤナ大学 留学生紹介

2016年9月から神戸女子大学文学部 日本語日本文学科で学んでいた、インドネシアのウダヤナ大学からの留学生PUTU CITRA ARISUTA (プトゥ チトラ アリスタ以下チトラ) さんが、2017年8月に1年間の留学を終えて帰国しました。

チトラさんは、小学校2年生のときから日本語に興味を持ち、話せたらいいなという夢がありました。

中学生になって日本語のクラブに入って勉強を始め、大学に進学して本格的に日本語を学びました。母国では日本人と話す機会が少ないことや日本文化に直に触れたいという思いから留学することを決意しました。



ライブラリー・commonsでのチトラさん



研究発表の様子



歓迎会でバリダンスを披露

神戸女子大学では、社会人として通用する話し方、聞き方の能力を身に付けることを目的にした留学生を対象とした日本語の授業で、聞く・話す力を磨き、読み書きでは、毎週800字の作文を書く課題をこなしました。帰国前には日本の新聞が読めて、会話もスムーズにできるようになりました。

留学の成果として「AKB48の歌詞におけるオノマトペー日本語からインドネシア語への翻訳ストラテジー」という表題の論文を書き上げ、日本語日本文学科の教員や学生を前に発表しました。この論文は、アイドルグループAKB48の歌詞に多く含まれるオノマトペ（擬声語・擬態語）が、オノマトペが少ないインドネシア語の歌詞に翻訳された場合に使用する翻訳ストラテジーの分析を行うという興味深いものです。



日本繊維機械学会第70回年次大会の特別企画のきものショーに出演

授業以外でも積極的に日本文化に触れ、花が好きなチトラさんは華道部で生け花を学び、家政学部家政学科の授業で浴衣を縫い、着付けも自分でできるようになりました。

日本各地を旅行し、特に北海道の雪まつりで初めて雪を見た時の感動が今でも鮮明に残っています。東京や大阪の大都会の良さも分かりましたが京都・奈良に代表される古い日本の文化により心惹かれたということです。

ウダヤナ大学に帰ると12月に卒業するために卒業論文の仕上げに取り掛かります。卒業後は、日本に関わる仕事に就いて日本語を使った仕事をし、これからもインドネシアと日本をつなぐ友好の輪を広げていきたいと語っています。



中島實学長から修了証授与



修了式後の記念撮影



- 1983年 ハワイ大学(米国)
- 1993年 ケント大学(英国)
- 1997年 フライブルク大学(独国)
- 2000年 華南師範大学(中国)
- 2006年 オークランド工科大学(ニュージーランド)
- 2006年 ピッツァー大学(米国)
- 2010年 ウダヤナ大学(インドネシア)

- 2010年 西安工程大学(中国)
- 2010年 カセサート大学(タイ)
- 2010年 高麗大学(韓国)
- 2011年 チェンマイ大学(タイ)
- 2011年 カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
- 2014年 静宜大学(台湾)
- 2017年 アイルランガ大学(インドネシア)

タイ・チェンマイ大学国際交流プログラムのスタッフ来学

神戸女子大学が国際交流協定を締結しているタイのチェンマイ大学から国際交流プログラムの指導教員、スタッフ7名が、文学部神戸国際教養学科の「オフ・キャンパス・プログラムⅢ タイ・チェンマイ大学プログラム」(担当：野口 和美教授)の5か月間同大学に留学する学生へ事前説明をすることを主な目的として、2017年7月10日(月)から12日(水)の期間、須磨キャンパスを訪問しました。

カリーム先生、サコーン先生によるタイの国内事情やチェンマイ大学についての説明、タイ語や英語のレッスンは、留学する学生の現地での学習成果の向上につながります。また、タイ留学を終えて帰国した学生もレッスンを受けることができ、留学成果の確認やタイ語を継続して勉強する励みにもなります。

最終日にはライブラリー・commonsでスタッフの女性メンバーがタイの伝統舞踊を披露し、鮮やかな衣装と優雅な舞踊で観客の学生と教職員を魅了しました。希望する学生にはタイの伝統舞踊のワークショップも行われ、タイの文化の一端に触れることができました。



タイの伝統舞踊のワークショップの様子



カリーム先生(左)とサコーン先生による語学のレッスン



スタッフによるタイの伝統舞踊

2017 オックスブリッジ英語サマースクール開催

イギリスの名門、ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の学生が組織するOxbridge Summer Camps Abroadの学生(オックスフォード大学ザックさん、ケンブリッジ大学ナターシャさん)を講師に迎えて「オックスブリッジ英語サマースクール」を2017年7月24日(月)から8月4日(金)の期間、神戸女子大学須磨キャンパスで実施しました。

日本語日本文学科、英語英米文学科、神戸国際教養学科、史学科、教育学科、管理栄養士養成課程から19名の学生が参加して語学力の上達を目指しました。

このサマースクールの授業はすべて英語で行われ、リスニング力、スピーキング力の向上が望めるだけでなく、日本とイギリスの文化、生活習慣の違いなども同世代の学生から学べる魅力があります。同世代が興味、関心を持つ内容から国際的な話題についても授業に取り入れて多様なレッスンが展開されました。

本学の学生も華道、書道、箏曲などの日本文化を紹介するプレゼンテーションを行い、オックスブリッジの学生に剣道、弓道を体験してもらう機会を設け交流を深めました。

このサマースクールは短期間ですが、楽しみながら同世代の学生と英語でコミュニケーションがとれ国際交流ができると参加した学生に毎回好評です。



ナターシャさんとザックさん



剣道体験



レッスンの様子



日本文化紹介のプレゼンテーションの様子



弓道体験

神戸女子大学・神戸女子短期大学の特色を生かした教員免許状更新講習

神戸女子大学では、平成21年からスタートした教員免許状更新講習に先立つ1年前から予備講習を開設し、翌年からは神戸女子短期大学においても更新講習を開始しました。

本学園は建学の精神に則り、教員養成を教育・研究の柱の一つに捉え、地元兵庫県をはじめ各地に多くの教員を輩出している歴史があり教員免許状の更新講習にも力を注いできました。毎年、多くの教員が受講していますが、今回は本学園の特色を生かした更新講習を紹介します。

神戸女子大学

文学部教育学科では、小学校教諭一種免許状・幼稚園教諭一種免許状が取得できます。小学校教諭として必要な実践的能力を高める教育を行っていますが、中でも理科基礎実験の知識や技術に長けた教員を養成するため、物理・化学・生物・地学の分野ごとに実験・実習を少人数で行っています。

教員免許状更新講習でも毎年「小・中学校教諭のための科学実験講座」は、この4分野にわたる実験・実習ができる講習として喜ばれています。



生物分野 稲垣善茂教授：
顕微鏡で体細胞の核分裂の染色体の観察



物理分野 西田実継教授：
浮力と密度(比重)の測定



化学分野 岩本哲幸准教授：
二酸化炭素の製法と性質を確認する実験



地学分野 村田恵子助教：
岩石・化石標本の観察

神戸女子短期大学

食物栄養学科は、栄養教諭二種免許状が取得できます。児童・生徒へ食育を行う知識や技術を備えた実践的な栄養教諭を育成しており、教員免許状更新講習では、「食育の実践—子どもの発達の見点から食育を考える—」を開講し、毎年栄養教諭、家庭科教諭、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士等多くの教員が受講し高い評価を得ています。



平野直美教授：
子どもの味覚を育てる教育について講義。
食塩含浸濾紙ソルセイブを使って塩味テスト



西川貴子教授：
和食文化と食育について講義。8種類のそうめんつゆの判別、インスタント食品の塩含有量の測定



市販の煮豆と手作りの煮豆との味や材料について比較する受講者

兵庫県教育委員会と共催「中堅教諭等資質向上研修」開催

神戸女子大学では、兵庫県教育委員会の依頼により、平成29年7月31日(月)・8月1日(火)の2日間、「中堅教諭等資質向上研修」(注)の「生徒指導」研修を初めて開催し、文学部教育学科榎元 十三男特任教授と谷山 優子准教授が講師を務めました。

1日目は63名、2日目は35名の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の中堅の教員が受講しました。榎元特任教授は「児童生徒理解と学級・学校の経営」「個別の生徒指導課題への対応」、谷山准教授は、「発達障害の理解と支援」「わかる授業づくり」のテーマで講義しました。

両日とも研修会はグループワークを取り入れ、受講者全員が発表や発言をして活気にあふれ、自らが問題解決の糸口に辿り着ける研修会となりました。講師を務めた本学の2名の教員がユーモアを交えて語った体験談は、管理職を支え新人を指導する中核的な存在である先生方への励ましの言葉ともなりました。

(注)教育公務員特例法第24条に基づき、公立学校等の中堅の教諭を対象に「個々の能力、適性等に応じて教諭等としての資質の向上を図ること」を目的とする研修



7月31日:榎元十三男特任教授による研修



8月1日:谷山優子准教授による研修



社会福祉学科の教員 高等学校で出前授業

神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科では、兵庫県の「進路選択学生等支援事業」による助成を受けて、県下の高等学校に教員が出向き、福祉・介護・人権に関する特別授業、講演、進路相談を平成26年から行っています。

平成29年度は申し込みがあった兵庫県下の五つの高等学校で平成29年9月から11月の間に延べ11回の出前授業を行いました。

同学科の教員は、各高等学校の要望により実習や講義を行い、高齢者、障がい者、児童、生活困窮者などのさまざまな生活課題がある人びとへの理解を深め、専門職としての福祉の仕事の説明し、進路選択の支援を行っています。

兵庫県立鳴尾高等学校

松崎 喜良教授 「福祉について」

兵庫県立北須磨高等学校

津田 理恵子教授 「介護技術について」
下司 実奈准教授 「児童福祉について」

兵庫県立明石南高等学校

松崎 喜良教授 「生活を支える社会福祉」
曾田 里美准教授 「児童福祉について」
下司 実奈准教授 「児童福祉について」

兵庫県立小野高等学校

下司 実奈准教授 「子どもの福祉」

兵庫県立星稜高等学校

松崎 喜良教授 「子どもの成長と社会福祉」

「福祉について」の授業
松崎喜良教授



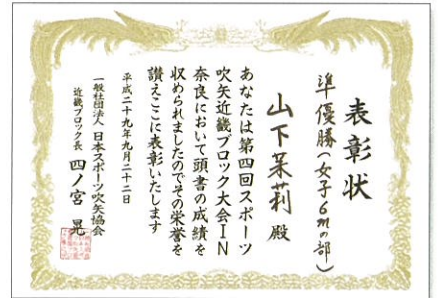
「介護技術」の授業。車椅子に移る板「移座えもんボード」の使用法を説明
津田理恵子教授

スポーツ吹矢近畿ブロック大会で準優勝

平成29年9月22日（金）に開催された「第4回スポーツ吹矢近畿ブロック大会IN奈良」女子6メートルの部で、神戸女子大学スポーツ吹矢同好会の山下 茉莉さんが準優勝しました。

山下さんは同年5月に開催された「第9回スポーツ吹矢兵庫県大会」の同部門で優勝し、近畿ブロック大会に出場しました。近畿ブロック大会では本選で同点となり1位決定戦でも決着がつかず、最後の1本勝負もまたもや同点になり、ついに中心からの距離を定規で測定の結果、わずかの差で惜しくも準優勝となりました。

山下さんは1年生の後期から本格的にスポーツ吹矢の練習を始めました。的に矢が命中したときに味わう爽快感は格別のもので、楽しく練習を続け、2年足らずの間にめきめきと上達していきました。スポーツ吹矢を始めて集中力がついたという山下さんは、試合では平常心を保つことが好成績につながったと語っています。今後は8メートルにも挑戦したいと新たな目標をたてて練習に励んでいます。



表彰状を手にする山下茉莉さん(家政学部家政学科3年生):報告会の出席者と記念撮影
左から齊山美津子学生部長、中島實学長、クラブ指導の西本由紀子助手、中岡弘一事務部長

表彰状を手にする山下茉莉さん(家政学部家政学科3年生):報告会の出席者と記念撮影
左から齊山美津子学生部長、中島實学長、クラブ指導の西本由紀子助手、中岡弘一事務部長

キャンパス・パーク連携事業 ターシャが紡ぐ物語

平成29年12月2日（土）から27日（水）まで、神戸市立須磨離宮公園とキャンパス・パーク連携を締結している神戸女子大学と神戸女子短期大学図書館が共催して、特別展「ターシャが紡ぐ物語」を開催しました。

「ターシャと楽しむお話会」 12月3日（日）には、特別展のイベントの一つ「ターシャと楽しむお話会」を午前と午後の2回公演しました。文学部教育学科の久野 和子准教授（専門：図書館情報学）のゼミ生10名と、図書館関係のボランティアに取り組む同好会「ビブリア」の学生1名の合計11名がクリスマスソング、ターシャ・テューダーの絵本の読み聞かせ、クリスマスにちなんだ紙芝居などで、子どもたちとその家族ら約90名を楽しませました。

久野研究室のゼミ生たちは幼稚園・保育所・子ども園で教諭や保育士として活躍することを目標に、絵本に関する専門的な知識や技能と豊かな感性の習得を目指して勉学に励んでいます。学生たちは自主的にお話会に使う絵本を選書し、プログラムを組み立てました。

ターシャの絵本は、お話に合わせて、キーボード、ハンドベル、トーンチャイム、打楽器でBGMや効果音を演出し、植物と動物を愛したターシャの描く美しい世界に観客を引き込みました。学生にとっては、これまでに学んだ知識や技能を総合的に活用・実践でき、子どもたちに絵本の魅力を伝え、自らのコミュニケーション能力を高める貴重な機会にもなりました。

お話会プログラム

- 絵本 『クリスマスのまえのばん』
ターシャ・テューダー絵
クレメント・ムア詩、中村妙子訳
- 紙芝居 『てぶくろ』
堀尾青史作、箕田美子絵
- 絵本 『コーギビルのいちばん楽しい日』
ターシャ・テューダー文・絵
食野雅子訳
- うた ジングルベル、きよしこの夜
あわてんぼうのサンタクロース



久野和子准教授(前右から2人目)とお話会を企画したゼミ生たち



読み聞かせをする学生
絵本:『クリスマスのまえのばん』

企業とのお弁当共同企画 締めくくり 第11弾「20品目の韓国風弁当」

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の後藤 昌弘教授（専門：調理科学）の研究室では、「自分の大切な人に食べてもらいたい健康に気遣ったお弁当」をテーマに、生活協同組合コープこうべ関連会社である株式会社コープフーズと大塚食品株式会社の協力のもと、商品開発に取り組む体験学習を平成25年から開始しました。平成29年7月に発売された第11弾となるお弁当「20品目の韓国風弁当」でこの企画は終了となりました。

最後の企画に参加した4年生のゼミ生は、「食欲をそそる！夏を乗り切るとっておき弁当」をテーマに、幅広い世代の人々に喜ばれ冷めても美味しく食べられるように工夫を重ね、これまでになかった韓国風のお弁当を考案しました。カロリーを抑えるために「マンナンヒカリ」を配合した主食のキンパ風ちらしずしは、巻きずしのように具を巻きこむのではなくご飯の上のせて食べやすくしました。

株式会社コープフーズの担当の方には、材料の原価計算や工場で作る工程を考えたレシピ作りなどで多くの助言、協力をいただき、また、学内での実習ではできないさまざまな経験をすることができました。

皆様に累計67万食以上のお弁当を召し上がっていただきました。

ご支援に厚く御礼申し上げます。



第11弾「20品目の韓国風弁当」

価格：498円（税別）
 カロリー：602kcal
 発売期間：平成29年7月17日（月）～9月30日（土）
 【主食】キンパ風ちらしずし
 【主菜】肉団子キムチソース和え
 【副菜】梅ナムル、ピーマンの塩昆布和え、ナスの揚げ浸し
 【甘味】わらび餅



後藤昌弘教授とゼミ生

森永乳業株式会社 生活協同組合コープこうべ 共同企画 ヨーグルトを使ったレシピ開発

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の堀田 久子教授（専門：栄養学）の4年生のゼミ生が、森永乳業株式会社、生活協同組合コープこうべ（以下コープこうべ）との共同企画で「濃密ギリシャヨーグルト パルテノ」（以下パルテノ）を使ったレシピを開発しました。

平成29年5月に同社の担当者からパルテノについて「3倍濃縮製法によるクリーミーな味わいと普通のヨーグルトの約3倍のたんぱく質を含む」など商品の説明を受け、各自がレシピ開発に取り掛かりました。

8月に須磨キャンパスの調理室で行われた試食会で同社とコープこうべのスタッフが審査員となり選ばれた3つのレシピが、コープこうべが発行している情報誌「コープCooking」10月号に掲載されました。

「おからサラダ」「白だし茶漬（ヨーグルト風味）」を考案した学生は、「和食にヨーグルトを使うことが難しくレシピが少ない」と説明会で聞き和食にこだわりました。マヨネーズにパルテノを混ぜてカロリーを減らしたヘルシーなサラダ、ヨーグルトと梅干は意外に相性が良いことを発見しリゾットに牛乳やチーズを使っていることをヒントにお茶漬を考えました。「バイクドヨーグルトケーキ」を考案した学生は、日頃からお菓子作りが好きで、同社発行のレシピ本でクリームチーズケーキはパルテノが代用できることを知り、バイクドチーズケーキにも使えると考えました。惜しくも選考に漏れたレシピも柔軟で斬新なアイデア満載で審査員を驚かせました。

堀田研究室のゼミ生は、野菜・くだもの・豆などの種・表皮・莢といった廃棄部分の有効利用を考え、その中に食物繊維やポリフェノールが多く含まれることから、健康に役立つ成分の抽出方法を工夫し、ヒトの腸内細菌叢改善に役立つ研究をしています。

レシピ開発にあたっては、アイデアを実際に作ってみることに始まり、思い描いた味や形にするために試行錯誤を繰り返しました。学生たちの実験を続け研究結果を出していこうと努力する姿勢がこのコラボ企画でも生かされました。



堀田久子教授（前列中）と共同企画に参加したゼミ生
前列の学生のレシピが情報誌に掲載



左から「おからサラダ」「白だし茶漬（ヨーグルト風味）」
「バイクドヨーグルトケーキ」

神戸・santica「麺ロード」と共同開発

神戸・三宮の地下街「麺ロード」4店舗と神戸女子大学・神戸学院大学・大手前大学・梅花女子大学の女子大生が共同開発した「大切な男性（ひと）と食べたいラーメン」が平成29年10月6日（金）から平成30年1月31日（水）まで発売されました。

神戸女子大学からは、家政学部管理栄養士養成課程の林 利恵子准教授（専門：食生活学）の4年生のゼミ生8名が「バジル香る豆乳イソフラボン仕立て～特製味噌を添えて～」を刀削麺（とうしょうめん）で知られる「福龍門」と協力して完成させました。

林ゼミの学生は、平成29年5月にこのコラボ企画に参加することを決定し、4店舗も参加した最初の企画会議で、個性的な刀削麺に惹かれて共同開発するお店は「福龍門」と決めました。

学生たちは最初に一人ひとりが他では食べられないラーメンを考え、6月末には各自で試作品を作りゼミで選考会を開いて候補を絞りました。

7月初旬に須磨キャンパスで「福龍門」の岡崎 翔平店長の出席のもと、各自が考えたラーメンのプレゼンテーションを行いました。その後、「豆乳と味噌を使った案と豆乳とバジルを使った案を組み合わせれば面白いものができる」と資料を持ち帰り吟味した岡崎店長からの提案を受けて、従来のラーメンのイメージにとらわれることなく自由な発想で意見を述べていきました。

岡崎店長は学生案を取り入れ試行錯誤を繰り返し、ホウレンソウと唐辛子の刀削麺も使い、オリジナルのバジルオイルをアクセントにした豆乳入りのスープに、特製味噌を添えたイタリア風と和風が中華に融合したラーメンを誕生させました。

学生たちは、この企画で商品として発売するためには客層や価格を考えるなど数々の課題をクリアしなければならないことを学び、異なる意見にも耳を傾け協力すれば想像以上にプラスの効果があることを実感しました。

クリーム色のスープにミニトマトが映える見た目にも美しい「バジル香る豆乳イソフラボン仕立て～特製味噌を添えて～」は、大切な男性だけでなく、友達、家族、職場の同僚を誘って来店された人びとに賞味されました。



福龍門と共同開発した「バジル香る豆乳イソフラボン仕立て～特製味噌を添えて～」



三種類の刀削麺の生地
ホウレンソウと唐辛子も加わり一層楽しめるラーメンに

「女子大生×麺ロード」共同開発 全店舗メニュー

神戸女子大学×福龍門

バジル香る豆乳イソフラボン仕立て～特製味噌を添えて～／880円（税込）

神戸学院大学×やぶ家

瀬戸内鯛麺「やぶ家and神戸学院」流／820円（税込）

大手前大学×麺道しゅはり 破

柚子香る1/3（one third）野菜とつくねのラーメン／850円（税込）

梅花女子大学×山神山人

イペリコ豚のソーセージとたっぷり野菜のポトフ麺＝マスタード添え＝／880円（税込）



林利恵子准教授（右）、ゼミ生、岡崎翔平店長

地元企業との産学連携 メニュー考案 継続中！

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の橋本 加代准教授（専門：公衆栄養学）の4年生のゼミ生が平成28年に続き、山陽電鉄グループ大阪山陽タクシー株式会社が経営する喫茶店「珈琲駅サンロード」とのコラボレーションを継続中です。

同店はJR明石駅構内にあり、客層は中高年以上が大半を占めています。「娘がお父さんに食べてほしいごはんや駅中で食事が気軽にできる利点をPRし、若い女性をはじめ、幅広い年齢層のお客様にも来ていただけるようなメニューを加えたい」との考えのもと、共同企画の申し入れがありました。

「ヘルシーで美味しく」「年間を通し調達可能な食材を使う」「喫茶店の厨房で短時間に調理できる」などの条件をクリアして2種類のメニューを考案しました。

バーガープレートは全粒粉のパンに豆腐ハンバーグを使いカロリーを抑え野菜をはさんでいます。デザートにヨーグルトも付いています。チキンカツプレートは醤油味で和風にアレンジしたチキンカツにたっぷり野菜を添えています。どちらもヘルシーで食物繊維が摂れ、彩りの美しさが特長です。



試作品を前に橋本研究室のゼミ生と橋本加代准教授(左)

珈琲駅サンロード(JR明石駅構内、ピオレ明石東館1階) 学生考案メニュー



商品名 「豆腐deヘルシー バーガープレート」(左) 1,000円(税込)



「食物繊維たっぷり 和風チキンカツプレート」(右) 1,000円(税込)

発売期間 平成29年11月11日(土)～平成30年3月31日(土)

パン研究会 神戸メロンパンご当地フード化計画に 女子大生のアイデアで協力 学園祭で販売

神戸女子大学の須磨キャンパスで活動しているクラブ「パン研究会」は、本格的な製パン設備が整った環境で、美味しいパン、ヘルシーなパンを研究し専門的なレベルで製造する活動を行っています。学園祭では焼きたてのオリジナルのパンを販売しています。

平成29年9月に行われた生活協同組合コープこうべ（以下コープこうべ）内部の商品開発コンテストに、パン研究会は外部団体枠で参加し、このコンテストのために作った「キャロットチーズメロンパン」が優秀賞を獲得しました。コープこうべでは、「神戸メロンパンご当地フード化計画」が進行中で、優秀賞に輝いた「キャロットチーズメロンパン」も従来のメロンパンに加えて商品化できないかという企画がもちあがりしました。

パン研究会では、パンの形を丸形から神戸メロンパンご当地フード化計画に合わせてラクビーボール形に変更し、工場の生産ラインに乗るように改良を加えて新しいメロンパンを作りあげました。11月11日・12日の学園祭ではパン研究会が作ったこのメロンパンを販売し、両日で300個が大好評のうちに売り切れとなりました。



「コーピー」もメロンパンも人気を集める



「キャロットチーズメロンパン」を成形するパン研究会の部員



学園祭で販売した「キャロットチーズメロンパン」



焼きあがった「キャロットチーズメロンパン」の前に笑顔の部員とクラブ指導の足田満吉助手(右)



コープこうべキャラクター「コーピー」も応援



第45回 運動会

「やさしい心をもち、主体的に行動する子ども」を育てることを教育目標に掲げる神戸女子大学附属高倉台幼稚園ではその成果を保護者に発表する場として、園児の発達に応じ、家族も参加しとにも楽しめる運動会を開催しています。

平成29年10月8日(日) 神戸女子大学須磨キャンパスのグラウンドで未来を担う子どもたちがさまざまな競技に挑戦し、やりぬく力を主体的に身に付けることを目的として第45回高倉台幼稚園運動会を開催しました。

全園児168名と2歳から3歳の未就園児「にこにこクラブ」の40名が秋晴れのもと、それぞれの競技で生き生きとした姿を見せました。

年少組は障害物を乗り越えゴールをめざす「出発進行！ハッピーたんけんたい！」と保護者をめざして走る「笑顔戦隊 ハシルンジャー」、年中組は全力で走る「キラキラスマイル☆レッツゴー」と心をひとつにパラバルーンを扱う「めざ

せ！パラバルーンマスター！」、年長組は足にまめをつくりながら練習をしているんな技を披露した「ゴーゴー☆竹馬」とクラス対抗のリレー「走れ！パワフル年長組」の競技で保護者に成長した姿を見せました。

「にこにこクラブ」の子どもたちが無理なくできる種目、保護者は綱引き、おじい様とおばあ様は玉入れに参加できるなど、家族の絆も深まる運動会となりました。

また、神戸女子大学文学部 教育学科4年生の幼児教育コースを履修している学生80名は、教育実習の一環として運動会の準備を行い当日のスタッフとして参加しました。

教育実習は4月から同園で始まっており、園児が成長していく過程を見守りながら実践的に幼児教育を学んでいます。将来、幼稚園・保育園・こども園で活躍するために運動会当日だけではなく計画、準備段階からこの行事に参加できたことは、貴重な体験となりました。



ゴーゴー☆竹馬



年長組

走れ!パワフル年長組



キラキラスマイル☆レッツゴー



年中組

めざせ!パラバルーンマスター!



年少組

出発進行! ハッピーたんけんたい!



全員で!

わいわい玉入れランド





Information 学園からのお知らせ



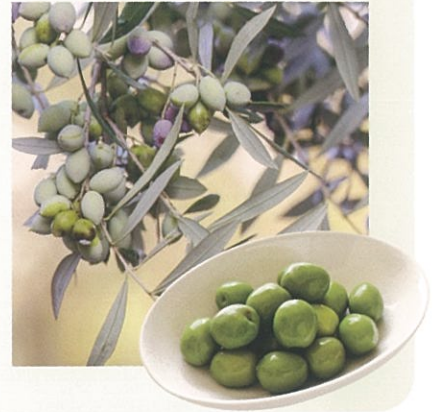
お知らせ

「KOBEエコタウン・オリーブプロジェクト」サポート事業者に登録

神戸市環境局では地域ぐるみで環境に優しいまちづくりに取り組む「エコタウンまちづくり」に、オリーブを活用してまちの緑化・美化を推進する「KOBEエコタウン・オリーブプロジェクト」を展開しています。

このプロジェクトに寄与するため、神戸女子短期大学 食物栄養学科がサポート事業者として登録されました。学園ではキャンパスにオリーブを植樹し、オリーブの栄養や調理法を学び食育に生かす計画を進めています。

最初の取り組みとして、平成29年9月19日(火)に神戸市東灘区の株式会社ロック・ワールドの神戸ファクトリー内で行われたオリーブの実の収穫に食物栄養学科の教員と学生が協力し、その後、9月23日(土)まで本学食品加工学実習室で収穫したオリーブの塩漬け作業を行いました。11月には小豆島でのオリーブ搾油体験研修、12月には大阪ガス株式会社クッキングスクール神戸で行った「オリーブ de クッキング」にて同学科の教員によるオリーブ・セミナーを開催しました。



ご報告

学園祭で華麗な演技を披露

平成29年11月12日(日)神戸女子大学須磨キャンパスで行われた第49回コスモス祭の野外ステージで文学部教育学科2年生の岩井七彩さんが演武「武術太極拳」を披露し、力強さと優雅さをあわせもった演技で観客を魅了しました。

岩井さんは、平成29年7月7日(金)から9日(日)に東京体育館で行われた公益社団法人日本武術太極拳連盟主催の第34回全日本武術太極拳選手権大会に出場し、自選難度競技部門の長拳4位、長拳短器械6位、長拳長器械5位の成績を残しています。強化選手にも選ばれ、今後の活躍が期待されています。



ご報告

神戸女子短期大学 特別コレクション「ターシャ・テューダーの世界」

ターシャ・テューダーの生き方から学ぶ Learning from Tasha Tudor's way of life

平成29年11月12日(日)ライブラリー・commonsにてコレクションの特別展示とシンポジウムが開かれました。

- 1)ターシャ・テューダーの功績と創造性
The Accomplishment of Tasha Tudor and Her Creative Imperative
総合生活学科 谷山 澤子教授
- 2)ターシャの生き方と作品を保育領域に活かす
幼児教育学科 桐原 美恵子教授
- 3)受け継ぎたいターシャ・テューダーの食への思いー行吉哉女先生の思い出と重ねてー
食物栄養学科 西川 貴子教授



総合生活学科 谷山澤子教授



幼児教育学科 桐原美恵子教授



食物栄養学科 西川貴子教授

ターシャが愛したお茶の時間

ターシャのレシピを参考に食物栄養学科教員作成によるお菓子とお茶を参加者とともに楽しみました。総合生活学科の古田 貴美子講師制作のターシャ・テューダー風の衣裳を着た総合生活学科の1年生2名がお茶・お菓子の提供をお手伝いしました。



行事日程

1月

- 1 月 **《元旦》**
- 5 金 【大学・短大】後期授業再開
- 8 月 **《成人の日》**
- 13 土 大学入試センター試験(14日まで)
- 17 水 阪神・淡路大震災 鎮魂の日
- 18 木 一般入試前期(19日まで)
- 26 金 【須磨キャンパス】後期授業終了
(※PIキャンパスは2月2日終了)
- 27 土 【短大】ブルーム展(2月1日まで)
- 30 火 【短大】後期定期試験期間開始(2月5日まで)

3月

- 4 日 【大学・短大】一般入試後期
- 16 金 【大学】学位記授与式・卒業記念祝賀会
- 18 日 【短大】第67回学位記授与式・卒業記念パーティー
- 21 水 **《春分の日》**

2月

- 2 金 【PIキャンパス・短大】後期授業終了
- 5 月 【短大】後期定期試験・補講期間終了
- 11 日 **《建国記念の日》**
- 14 水 【短大】後期定期試験結果・追再試験発表
- 20 火 【短大】後期追再試験(22日まで)

4月

- 3 火 【短大】入学式
- 4 水 【大学】入学式
- 6 金 【大学・短大】前期授業開始
- 29 日 **《昭和の日》**

編集後記

2月の行事といえば節分、豆まきや恵方巻きを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。大阪から始まったといわれている恵方巻きは、その年の恵方に向かって巻き寿司を食べるという風習ですが、最近は全国に広がっているようです。

今回の特集は「食」を研究する神戸女子大学と神戸女子短期大学の課程・学科のうち、子どもたちを対象とし地域に密着した食育の活動を採り上げました。子どもたちに「食」への興味・関心を高め、最新の情報や知識を伝えるために地道に努力を重ねる学生や教員の活動を紹介しています。

また、地域連携の頁では、地元の企業等とのコラボレーションを行い活躍している学生の活動を掲載しています。

平成29年は神戸港が開港され150年を迎えた年でした。世界に開かれた街として多様な文化を受け入れ国際都市として発展を続けている神戸は、ゴルフ、映画、ジャズ、紅茶、洋菓子などを初めて日本で取り入れた地としても知られています。

神戸に位置する大学として、神戸で学ぶ魅力と学生や教員の活躍する姿を読者の皆様に今後もお伝えしてまいります。

「神女広報CROSSROADS vol.25」の発行にご協力いただいた関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

(M.O)



今号のバラ 茜離宮

Akanerikyu

茜離宮は、須磨離宮公園の開園50周年を記念するオリジナルローズです。四季咲きのモダンローズで大輪(HT)、花は濃い燃えるような朱オレンジ色。特に、色鮮やかになる秋には、まるで夕日に染まる茜空を連想させます。茜離宮は、長年神戸のバラの普及に尽力されてきた藤岡友宏氏が、神戸らしさをイメージして作出しました。

バラの作出は、親となるバラの交配から始まり、思い通りの花が生まれる確率は最低でも1600分の1といわれています。藤岡氏にとって、バラの作出は初めての挑戦でしたが、より良い花を追求し続け、この茜離宮が誕生した時には10年が経っていたといいます。みなさんの目指す道もまた、バラの作出と同様に一朝一夕には結実しないでしょう。しかし、実現する強い意思が続く限り必ず実るはず。やがて学び舎を旅立ち、それぞれの地で夕日を眺めた時、神戸・須磨での学生生活とともにこのバラ・茜離宮に思いを馳せていただけたら幸いです。

神戸市立須磨離宮公園 園長 青木 ひろみ